

花きで地域の知名度向上

更なる高みを目指して、花き生産を推進するJAの取組

JAみついし(新ひだか町)



【花き集出荷施設(外観)】

【組織等の概要】

- 代表者：代表理事組合長 酒井 薫
- 組合員数：661人(正組合員365人、准組合員296人)
- 花き生産(R2年産)：生産戸数63戸、栽培面積15.4ha
- 取扱品目：デルフィニウム系を中心に約40品目
- 出荷先：関東・関西圏を中心に大消費地に出荷
- 連絡先TEL：(0146)34-2011
- URL：https://www.jamitsuishi.com/

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 平成元年、それまで米作と軽種馬生産の農業を中心としていたJAみついしでは、従来の農業では将来の収益等に不安を感じ、新たな作物生産の模索を開始
- ◆ 同じ頃、水稻の補完作物として6戸の組合員が花きの「ストック」栽培を始め、試行錯誤しながら生産を拡大
- ◆ 花き生産が軌道に乗り、生産者が増えてきたこと及び販売力の強化から共販体制確立の必要が生じてきたこと等により、組合員組織として平成6年に「花き振興会」を設立
- ◆ 組織設立後、「みついし花だより」ブランドを確立し、鮮度、品質の高さから市場等の評価が高く、北海道でも有数の花き産地となり現在に至る

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 生産者の栽培技術の差
⇒ 新ひだか町が開設した農業実験センターを活用した花き栽培の技術指導の推進
- ⇒ 出荷花きの規格や鮮度等を揃えるため、生産者を集めた目合わせ会を開催
- 花きの品質、鮮度維持及びコスト削減
⇒ 生産者全戸への予冷庫の整備、個選・共選を分けるための集出荷施設の整備を推進
- ⇒ 出荷はトラックのチルド便を活用した陸送を導入し、週3回の大量輸送体制を確立

【取組の成果】

- 施設整備前の平成18年は取扱本数約852万本、販売額約5.9億円、流通経費約1.7億円であったが、品質の向上等による市場評価の向上及び陸送を用いた流通経路見直しのコスト削減等により、令和元年には取扱本数約701万本、販売額約8.0億円、流通経費約2.2億円となり、単価上昇と収益向上を達成
- 冷涼な地域特色を活かした「デルフィニウム」栽培と花き生産体制の確立により、地域の知名度が向上し、新規就農者が増えたことなど、地域の活性化にも貢献



【取り扱っている花きはホームページ等で紹介】

【活用した支援施策】

- 強い農業づくり交付金(H18年度)
(花き集出荷施設)

【今後の展望】

- 生産者が生産した花きについて、集荷、出荷、市場開封時それぞれの段階で発生するロスを少しでも減らし、よりブランド力を高めて、安定した収益の確保を目指す
- 生産力の向上に向けた集出荷施設の再整備、生産者の出荷労働力の分散化を図るため出荷に係る情報をシステム化するなど、集出荷に係る環境の整備を進める



【選別・箱詰め・集荷を経て「みついし花だより」として出荷】